

寛永寛永二年十一月相摸國高庄

郡の内一を以て米北二百二十石を

清朱印と下さるのら百石は新恩のり

同十年又二百石を加つしはまきの加増

とあはせまゝして六百二十石と願ひ

家同十一年二月大坂より矢奉り御書

仰日記(今の太番辰河  
三市盛仁の祖なり)

山三市盛景は藤次市盛政の長男

なり寛永九年八月よりめり

大猷院殿一拜賜とてまゐる十二年

なりき同十年十月より大番と

なり康米二百俵とてまゐる

家譜に按じると  
盛景もかくら出

を助盛直は新庄の盛の二男なり

氏花に生る

右徳院殿の御命よりて駿河大納言

忠長卿一附属せしむ寛永の御奉

あるに後湯家人家子列家

大猷院殿に侍る寛永の御奉

なほ家寛永十一年四月九日家

四十二家として死家法名常家云家

嗣家子家よりして送家跡家絶家る家

版河

新田の平盛信家と新田の盛之家の二男

なり武藏家の生る家よりめい名家に兵十市

より慶長十の年より

台徳院殿家に侍る家の御奉家大

番家の列家なり米北家二百石家と錫家の同

十九年大坂陣家に供奉家し翌年家の

夏陽陣家に下家よりして城番家と勅家む